

令和8年度 北海道札幌平岡高等学校 学校経営シラバス

校訓	努力 忍耐 感謝	学校教育目標	平和国家の形成者として、愛と信頼に基づく人間尊重の精神を育てる
スクール・ミッション	<p>○生徒の興味・関心や進路希望等に応じて設定した科目の学習を通じて、進路実現に向けて必要な資質・能力・態度を身に付けた生徒の育成</p> <p>○変化する社会に対応するため、幅広い知識と教養を身に付け、他者と協働して課題解決を図ろうとする生徒の育成</p> <p>○人間の多様性と生命の尊重の精神に基づき、持続可能な社会の形成者の育成</p>		
スクール・ポリシー	<p>育成を目指す資質・能力に関する方針</p> <p>自己の在り方生き方を探究するとともに、主体的に学び、他者と協働することをおして社会性・課題解決能力や表現力を身に付け、豊かな人生を切り拓くことのできる力の育成。</p>	<p>教育課程の編成及び実施に関する方針</p> <p>生徒の興味・関心や能力・適性・進路希望に応じて、進路実現に向けて必要な能力や態度を育成する、社会に開かれた教育課程の編成と実施。</p>	<p>入学者の受入れに関する方針</p> <p>基本的な学力と生活習慣が身に付いており、明確な進路目標を設定し自己実現に向けて主体的に学ぶとともに、部活動や生徒会活動にも積極的に取り組む意欲にあふれた生徒。</p>
学校経営方針	「努力 忍耐 感謝」の精神を礎に、自律的な学びと確かな生活習慣を確立し、社会とつながるキャリアを拓き、教職員の組織力で生徒一人ひとりのウェルビーイングを実現する学校づくりを推進する。		
育成すべき生徒像 (重点目標)	<p>◇ 自ら学び、他者と響き合い、未来を拓く、しなやかな強さを持つ生徒（を育成する。）</p> <p>1 高い志を持ち、粘り強く学習に取り組む生徒（を育成する。）</p> <p>2 多様な価値観を認め、自他の心身を大切にしている生徒（を育成する。）</p> <p>3 社会の課題を自分事として捉え、行動できる生徒（を育成する。）</p>		
領域	対象	今年度の目標	目標達成のための具体的取組
教育活動	学習指導	<p>主体的・対話的で深い学びの実現と自学力の育成</p> <p>【「努力」を自律へ】</p>	<p>■各教科で、基礎基本を徹底するとともに、「主体的・対話的で深い学び」を実践し、進路希望を実現する高度な読解力・思考力を育成する。</p> <p>■ICTを効果的に活用し、生徒同士の対話や発表を軸とした「アウトプット型」の授業スタイルに転換するなど、授業改善を推進するとともに、評価の工夫・改善に努める。</p> <p>■学習支援クラウドサービス等を効果的に活用し、家庭学習の可視化を図る。</p> <p>■宿題を単なる作業にせず、家庭での振り返りや予習が次の授業に直結する仕組みを構築する。</p> <p>■探究的な学びや読書活動の充実等、生徒の知的好奇心を刺激する取組を推進する。</p>
	生徒指導	<p>基本的な生活習慣の徹底と、心のレジリエンス向上</p> <p>【「忍耐」をしなやかさへ】</p>	<p>■挨拶、身だしなみ、時間の励行など、社会に出るための基本的な生活習慣を「自分を律する（コントロールする）力」として指導する。</p> <p>■行事や部活動等を通じて、リーダーシップとフォロワーシップを育成する。</p> <p>■いじめ防止を徹底し、心のケア（相談体制）の充実に努める。</p> <p>■互いの個性を認め合い、自他の生命を大切にすることを育み、対話を重んじる学校文化を醸成する。</p> <p>■オンライン学習等を活用した「学びの継続」を保障し、孤立させない支援体制を整える。</p>
	進路指導	<p>働く意義の理解と、自己のキャリア形成力の育成</p> <p>【「感謝」を社会貢献へ】</p>	<p>■企業や大学等との協働プロジェクトを通じたリアルな学びを提供すること等をおして、多様な価値観に触れ、広い視野で物事を捉え、社会とのつながりを意識し、自らのキャリアを主体的にデザインする力を育てる。</p> <p>■外部リソースを適切に活用し、多角的な職業観と「働くことの厳しさと喜び」を学ぶ機会を設ける。</p> <p>■3年間を通じ、進路選択が自分の人生の目的にどう繋がるかを言語化させる。</p>
	健康・安全指導	<p>心身の自己管理能力の育成と、安全安心な教育環境の構築</p>	<p>■保健だより等を通じて、睡眠・食事・運動の自己管理を促進する。</p> <p>■いじめアンケート等の実施をおして、ハイリスク生徒の早期発見に努める。</p> <p>■SOSの出し方に関する教育を実施する。</p> <p>■防災意識を高める「実践型避難訓練」の実施と、通学路における危険箇所の把握に努める。</p> <p>■SNSトラブル防止のための情報モラル教室や、ネット依存や誹謗中傷のリスクに関する事例学習を実施する。</p>
学校運営	信頼される学校づくり	<p>開かれた学校運営と双方向の情報発信による、地域・保護者とのパートナーシップの確立</p>	<p>■学校Webサイトの更新頻度を増やし、生徒の活躍や授業の様子を可視化するなど、開かれた学校づくりと魅力発信に努める。</p> <p>■学校評価に関する保護者アンケート等の結果を速やかに分析・公表し、次年度の改善策を具体的に提示する。</p>
	組織運営	<p>チームとしての組織力の最大化と、持続可能な校務環境の構築</p>	<p>■業務の効率化を進め、生徒と向き合う時間を確保する。</p> <p>■属人的な業務を「チーム」へ移行し、特定の職員への過度な負担を軽減する。</p> <p>■教職員間の情報共有をチャットやクラウドに移行し、ペーパーレス化をさらに推進する。</p> <p>■「北海道アクション・プラン」に従い、時間外在校等時間を削減し、心身ともに健康で活力ある指導体制を維持する。</p>
	教職員の資質能力向上	<p>学び続ける教職員集団の形成と、専門性を高め合う研修の充実</p>	<p>■単なる技術伝達にとどまらず、共に学び、支え合うプロフェッショナルな関係性を築く「同僚性を高めるOJT」を充実させ、教職員同士の相談体制を強化する。</p> <p>■全教員が年に1回以上授業を公開し、教科を越えてICT活用術等を検討し合う機会を設ける。</p> <p>■生成AIの活用や校務支援ソフトの習熟等により、データの分析力を高める。</p> <p>■教職員としての服務規律の厳守に係る意識を高め、服務事故を根絶する。</p>